

ヤマト絵日記 その7



西城紫水高校活性化プロジェクト会議報告 (2月21日開催)

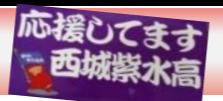
今年度5回目の会議が行われました。来年度22名の入学願書受付が報告され、県教委の20名以上という基準をクリアできました。私たちは、公共機関が無くなるということは、その地域が疲弊していく第一段階ととらえています。そのために、紫水高校を存続させることが、芸備線の存続に、延いては地域の元気に通じると考えて取り組んでいます。

紫水高校では、かねてより全国から生徒を募集したいと考えていました。その有効な手段として、「地域みらい留学」という制度を活用するため、登録に必要な経費88万円を、庄原市で予算化するよう、市長と議会議員に対し、要望書と請願書を提出しました。「地域みらい留学」とは、地域・教育魅力化プラットフォームが運営する制度です。～「高校」を核とした地域創生～を目的として活動されている一般財団法人です。全国110校、県内では加計高校及び同校芸北分校、大崎海星高校が加入し、実績をあげています。

連携型中高一貫教育についての議論もありました。県内では、加計高校および同校芸北分校、御調、賀茂北、油木の各高校が取り入れています。県教委からは、庄原市の同意が必要だが、西城紫水高校も、取り入れることは可能である。広島県は、教育委員会だけでなく、知事部局の地域づくり担当部署も一緒になって、高校問題に取り組んでいるとの回答がありました。

庄原市、庄原市議会も、市内の高校の在り方について、どうあるべきかの議論を始められるように、要望します。

西城の皆さん、関心を持って見守りましょう。そして一緒に進みましょう。 文責・副会長 新田晴士



Header banner for '西城まちづくり便' Vol.141, 2024.3.21 (Thu). Includes contact info for Saijoutyokankoukyukai and QR codes for Hibiagon-machi and Saijoutyokankoukyukai.

地域がいきいき、集まろう！誰ひとりもとり残さないで！ ～地域という大家族がまっています、通いの場で元気になろう！！～

桃の花咲く季節になりました、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。令和5年度の市政懇談会(9月5日)では、:テーマ「庄原いちばん～10年先を見据えたまちづくり」。庄原市自治振興区連合会のテーマ「庄原市の地域包括ケアシステム～地域で取り組む地域包括ケア～」として行われました。「高齢者の高齢化」がすすみ、「超高齢社会」を迎えている西城自治振興区でも、住民自治の視点から高齢者の暮らしを支えるしくみづくりの動きを始めています。庄原市では早くから孤独死をきっかけに、一人暮らし相談員による巡回が行われてきていますが、私たちも地域みんなで「誰ひとりも一人ぼっちにしない、させない」動きをしていきたいと考えています。

常会ごとに、住民主体の小地域に密着した楽しい「通いの場」を増やしていくことをめざしています。(「環境福祉部の取り組み)。現況は「地域別小サロン一覧:庄原市社会福祉協議会西城地域センター」の通りです。(下記に記載) 通いの場は、地域の高齢者とその支援の住民同士が気軽に集い、ふれあいを通して、いたわりと励ましの輪を広げる場所だと思っています。地域の声かけ合い・見守りや援助、相談したりされたりし、また災害時の緊急拠点ともなる場所だと考えてます。

人生100年時代。歳を取ってからも「教育と教養」が大事だと。よく聞いてみると、「今日行く(きょういく)ところがあるという、教育」と、「今日よう(きょうよう)じがあるという、教養」のことでした。過日に、「親逝きて子らも巣立ちて日の長く隣り合わせの自由と孤独」。また、「小さくてもあしたに予定のあるときは老いの暮らしにはりあいがでる」とも謳われているのをお見受けしました。課題なのは、現役時代の栄光にとらわれて、高齢男性の参加が少ないことだと聞きます。居場所が失われると急速に老いに向かうとも。大事なものは、これまでではなく、いまのこの時だと思えます。

長寿のカギはフレイル(虚弱)の予防だと言われます。フレイルは、社会性の衰え・心の衰えから始まるのだと聞きました。そして、食事の量が減るなどの栄養面の衰えへとすすみ、さいごには、歩く・つかむなどの運動機能の低下などの身体面の衰えにと移行して、要介護に至るのだと教わりました。通いの場は、そうしたことを避けるための外出目的であり、介護予防のためのものです。居場所であり、体を動かす機会、役割(役目)や楽しみを自分たちで見つけていく広場です。

ご近所では、ふれあいサロンなどの活動が行われています。集まることにより、毎日をいきいきと過ごすことができ、地域にも活力が生まれていきます。こころ豊かな老いと健康長寿、そして人生に幸せの種をまいてくれるものと考えています。うれしいこともしんどいことも、みんなで分かち合い、ワイワイガヤガヤと楽しく過ごして健康になりましょう。急に「外へ出よう」と言われても困ってしまう人もおありかと思われませんが、あきらめずに外出が苦手なお方にもお声をかけていただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。 西城自治振興区 会長 田村富夫

「地域別小サロン一覧:庄原市社会福祉協議会西城地域センター」

Table with 4 columns: 自治会, 行政区, デイホーム, 小地域サロン. Lists various neighborhood salons across different districts like Saijoh, Hibiagon, and Saijoh.

八鳥自治会「新年互例会」

1月14日(日)、八鳥集会所で新年互例会を開催しました。1月1日に能登半島沖地震が発生し、暗い気持ちではありますが、盛大に新年互例会を開催することができました。参加者は40名。アトラクションでは、神楽塾の子どもたちから、大きく生きる力をもらいました。 子どもの力がこんなにもあり、そして、未来を担う力を感しました。(滝本明人さん談)



能登半島地震災害義援金受付中

元旦に発生した大地震。いまだに大勢の方が避難生活をされています。お役に立てるよう、西城自治振興センターでも義援金の受付を行っています。

ありがとう!「カープ号」「おろち号」



なみか・ほろかカードで1ポイント

西城自治振興センターで「なみかカード・ほろかカード」で1ポイント付与されます。(1日1回限り、令和6(2024)年3月31日まで)



人権教育講演会

2月28日(水) 西城自治振興センター

大集会室にて人権教育講演会を開催しました。講師に西願寺住職 寺川大雅さんを迎え「現代社会から見える人間の在りようとは?～仏教の視点からみる～」をテーマに約1時間30分の講話でした。出席者は38名。始めに小学校2年のとき、西城から京都に引っ越し、家の前の掃除のしかた、子どもに敬語を使うなど、京都の風習に戸惑ったこと。20年前に西城町誌の編さんに関わり、郷土研究会が資料を残してくれたおかげで大変に助かり、先人に感謝していることなどを話されました。



西願寺 住職 寺川大雅さん

人権とはすべての人が有する普遍的な権利。命、生き方を大切に守りましようと言うことだが、しかし、実際はそうっていない。ウクライナ、中東、少子化、過疎、これは全部人間がやっているということ。戦争も差別も人間がやっていること。

子どもが親に「勉強はなぜするの」と聞くと、親は、「いい学校に入って出世して、お金をもうけて楽な暮らしができる。そうすると同窓会で自慢できるだろう」勉強する意味を伝えられない親。



出席者38名 人権教育講演会

人間は本来、私自身を知らない。経教(仏の教え)は鏡のようなもの。写るのは凡夫(ただびと)。人間は煩惱を持ってしか生きられない。むさぼり、怒り、愚痴。私たちは差別をし、迷うものである。例えば、山の中で道に迷っている時、行く道を知っている人に教えてもらえば目的地に行ける。教えてもらわないとわからない。鏡の前に立たないと自分がわからないように。教えてくれる人がいないとわからない。

凡夫(ただびと)だからこそ、人間はこういうものだ教えてもらわないと、自らではわからない。偏見も見下すことも人から教えてもらったこと。大切なのは、そういう教えに出会って、この人生でよかった。この生き方でよかったと教えてもらえる人に出会うこと。と締めくくられました。

第5回 役員会

2月15日(木) 第5回役員会を開催した。令和6年度からの西城地域廃止代替等バスの運行について、庄原市役所・西城支所からの説明があった。西城地域のバスの運行状況と、運行事業者や自治振興区の意見を踏まえ、乗車率の低い路線の昼便の運行について、予約運行を予定していること。

自治会からの要望として、利用者へのきめ細やかな、具体的な周知をしてほしい。走行していれば予約なしでも乗車可能としてほしい。などの意見がだされ、「油木線」、「上尺田線」及び、「大戸・本谷線」の昼便予約運行の提案は承認されました。

続いて、事務局から「人権教育講演会」及び、「地域包括医療・ケアシステム講演会」開催の提案がありました。その他として、災害が発生するおそれがあるときの要支援者の避難支援・情報伝達について、西城自治振興センター開館中は事務局長、事務職員から各自治会へ連絡する。西城自治振興センター閉館中は副会長から各自治会へ連絡する。また、防災策定計画について、自治会ごとの進捗状況の報告が自治会長からありました。

手つかずの自治会もあります。名簿や組織図、それぞれの地域により、きめ細やかに避難場所を決めている自治会もありました。

避難は一人での決断が難しい。災害で避難中に事故が起きると困る。避難情報を教えてほしい。同じ地域で情報共有してほしいとの意見がでました。



役員会

第3回 地域振興部会

2月22日(木) 第3回地域振興部会を開催

した。協議は本年度活動報告から始まり、部会費の収支報告について説明がありました。次年度に向けて・西城どえりゃあ祭り、西城ふるさと祭の準備・片付けの継続はしたい。ドローンサッカー体験会in西城の継続。次年度はドローンサッカーの用具一式の購入を考えている。補助金申請のプレゼンテーション準備をして部会にかけ、市に申請する予定。西城紫水高校で部活に活用できないかと考えている。1年間はゲームを工夫して行えばイベントはできる。試合は難しいが、ドローンは色々な事が出来る。その足掛かりにできる。未来に夢が広がる。などの説明がありました。

空き家セミナー&相談会も継続したい。国の制度が変わり、4月1日以降に相続登記をしないと10万円以下の過料となる。地権者に周知徹底しないとイケない。空き家は困り事。問題は崩壊した危険な空き家。相続についての勉強も必要。空き家セミナーは前は補助金があったので無料で開催できたが、1回あたり5万円必要だ。継続して空き家セミナーを開催し、地域で知識を身につけた人が、地域で周知することが大事。との内容でした。



12/16(土)ドローンサッカー体験会

第4回西城自治振興区ロビーLIVE開催



2月23日、西城自治振興Cで行われたライブには、約50名の観客が集まり、8組11名の演者が出演。懐かしい曲や大切な人を偲ぶオリジナルソングで会場は、心温まる雰囲気になりました。ご来場頂いた皆様、出演者の方々、ありがとうございました。

魂の演奏

想いをこめて...

カフェも大忙し

BANDサウンド!

神弓祭

大佐村自治会



2月18日(日)大佐沖側の14戸が集まり、聖神社(ひじりじんじゃ)で神弓祭が開催しました。神主3名を迎えて盛大な神事を実施しました。神主が長時間たたく弓の音色と祝詞をあげて、1年間の家内安全と五穀豊穡を祈りました。



神主が弓をたたき祝詞をあげる

コロナ禍により4年ぶりに一堂を会して直会(なおらい)(食事)を実施しました。(大佐村 会長 原田 勝則談)

掛開神社 消火訓練

平子自治会

2月4日(日)に、西城町平子の掛開神社(かけがいじんじゃ)で、文化財防火デーにちなみ、消火訓練がありました。庄原消防署西城出張所と神社の氏子の皆さんが、訓練を行いました。

最初は、初期消火の住民によるバケツリレーを行い、火災が大きくなって消火出来ず、消防署に通報するという想定でした。



放水訓練



消火器の訓練

消防署への通報の仕方や、放水しての消火訓練を見学し、最後は消火器の使用について、訓練用の消火器を使いました。

普段は、経験できない内容ばかりで、参加された皆さんからも、質問が出され、とてもよい消火訓練になりました。

(掛開神社・岡崎公則総代長談)



住民によるバケツリレー